

松平家史料展示室 夏季特別陳列①

# 東京1964こぼれ話

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 令和2年7月18日(土)  
～令和2年8月30日(日)
- 休館日 8月11日(火)

昭和39(1964)年10月10日から10月24日までの15日間にわたり、第18回オリンピック東京大会が開催されました。その開催にあたり、準備作業や運営などに多くの人に関わりました。

本展では当館の元館長で、同大会の際に近代5種競技の競技役員を務めた松平永芳氏<sup>ながよし</sup>が残した資料から、興味深いエピソードなどを紹介します。

## 第1章 大会関連品こぼれ話

選手に授与される金・銀・銅のメダルの材質は、オリンピック憲章に規定されています。当時の規定では、金メダルは「銀製で少なくとも純度1000分の925の銀を用い、少なくとも6グラムの純金で丈夫に鍍金(金メッキ)されたもの」と規定されています。

選手村で発行されていた広報誌、「選手村ニュース」には様々な内容が盛り込まれていました。No.3の記事では、『自転車DOROBO?』と題し、選手の村内移動用自転車(メーカーからの寄贈品)が故障や配備数の少なさから全く足りず、置いてあっても、すぐ他の人にとられてしまうなど、争奪戦になっており増車が必要であることを伝えています。



金・銀・銅メダル (複製)



オリンピック憲章



選手村ニュース

## 第2章 福井の聖火リレーこぼれ話

福井県では、昭和39年9月28日から30日にかけて県内を横断する聖火リレーが行なわれました。

使用したトーチは、他県では聖火リレー終了後、正走者に授与されることもありましたが、県内では全て県が回収し、全市町村及び体育協会などの団体に分配されています。現在の福井市域には14本が分配されています。(福井市7、森田町3、足羽町1、清水町1、美山町1、越廼村1)

旧森田町の第92区（森田橋北詰－森田駅前）リレー隊は、全て女性で構成されていました。県内リレー区間全104区間のうち、リレー隊が全て女性で構成されていたのは鯖江市の第79区と、この区だけでした。

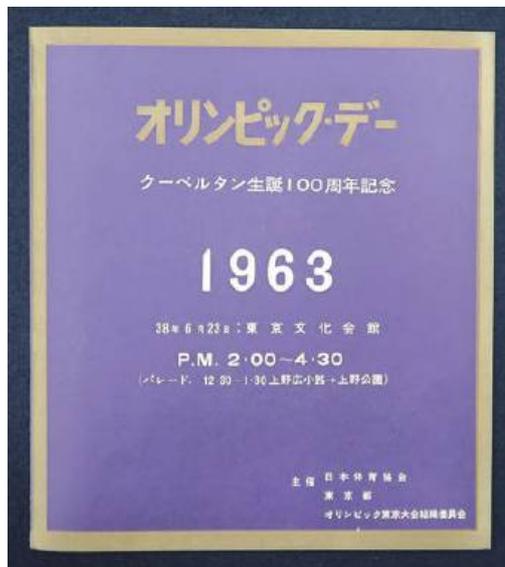


旧森田町での聖火リレーの様子

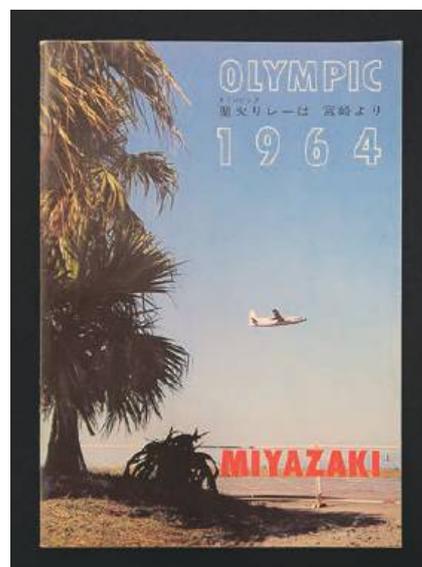
### 第3章 こぼれ話あれこれ

オリンピックデーは、1894年6月23日にクーベルタンの呼びかけにより、近代オリンピックの復興と、その主催者たる国際オリンピック委員会（IOC）の創設が決議されたことを記念した日です。1948年に「オリンピックデー」として制定され、この日には各国でオリンピックにちなんだイベントが毎年開催されています。1963年には、クーベルタン生誕100周年も記念して、東京でパレードやコンサートが行われました。コンサートでは、古関裕而作曲の「オリンピックマーチ」や、古賀政男作曲の「東京五輪音頭」などが披露されています。

国内聖火リレーのコース設定にあたり、宮崎県はその起点となることを要望していました。返上した1940年東京大会では、紀元2600年を記念していたこともあり、「天孫降臨の地」である宮崎県を聖火リレーの起点とする案が有力でした。1964年大会では、リレーの起点は当時アメリカ統治下であった沖縄となり、そこから4コースに分かれて東京を目指しました。宮崎は第2コースの起点となっています。



オリンピックデーパンフレット



宮崎県リレー招致パンフレット

#### 次回の展示

#### 松平家史料展示室 企画展

「絵をたのしむ～越前松平家の人々ゆかりの絵～」

令和2年9月3日(木)～10月6日(火)

松平家史料展示室 展示解説シート No.132  
令和2年7月18日発行

#### 福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1  
電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489  
担当 白嶋 祐司  
印刷 宮本印刷